

Oracle[®] VM Server for SPARC 3.5.0.1 補 足リリースノート

2018 年 2 月

Oracle VM Server for SPARC 3.5.0.1 補足リリースノート

これらの補足リリースノートには、Oracle VM Server for SPARC 3.5.0.1 保守更新リリースに関する次の情報が記載されています。

- [2 ページの「この保守更新リリースの新機能」](#)
- [3 ページの「解決済みの問題」](#)
- [3 ページの「ドキュメントに関する情報」](#)

サポートされているハードウェア、最小のファームウェアと完全に認定されているファームウェア、Oracle Solaris OS とハードウェアについては、『[Oracle VM Server for SPARC 3.5 インストールガイド](#)』の第 1 章、「システム要件」を参照してください。

Oracle VM Server for SPARC 3.5 ソフトウェアの問題については、『[Oracle VM Server for SPARC 3.5 リリースノート](#)』を参照してください。

この保守更新リリースの新機能

ldmd/pm_enabled SMF プロパティ値がデフォルトで false に設定されている

Oracle VM Server for SPARC 3.5.0.1 保守更新リリース以降、Oracle SPARC システムの電源管理 (PM) 機能がデフォルトで無効になっています。この機能を有効にするには、ldmd/pm_enabled SMF プロパティ値を true に変更します。

注記 - 論理ドメイン Manager ベースの電源管理のサポートは非推奨であり、Oracle SPARC プラットフォームでは完全に削除される可能性があります。『[Oracle VM Server for SPARC 3.5 リリースノート](#)』の「[非推奨および削除済みの Oracle VM Server for SPARC 機能](#)」を参照してください。

ldmd/pm_enabled SMF プロパティは Oracle VM Server for SPARC 3.5 リリースで導入されましたが、このプロパティ値を false に設定する場合は、Oracle VM Server for SPARC 3.5.0.1 保守更新を必ずインストールしてください。

PM を手動で無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
primary# svccfg -s ldmd setprop ldmd/pm_enabled=false
primary# svcadm refresh ldmd
primary# svcadm restart ldmd
```

PM を手動で有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
primary# svccfg -s ldmd setprop ldmd/pm_enabled=true
primary# svcadm refresh ldmd
primary# svcadm restart ldmd
```

ldmd/pm_enabled SMF プロパティは Oracle SPARC システムにのみ適用されることに注意してください。Fujitsu SPARC システムでは PM 機能はデフォルトで有効のままであり、ldmd/fjpm_enabled SMF プロパティによって制御されます。

新しい ldmd/fjpm_enabled SMF プロパティ

ldmd/fjpm_enabled に関する次の説明が、[ldmd\(1M\)](#) のマニュアルページに追加されました。

ldmd/fjpm_enabled

Fujitsu SPARC システムでの ldmd の起動時に電源管理 (PM) を有効または無効にします。デフォルト値は true で、PM が有効であることを意味します。

Oracle VM Server for SPARC 3.5.0.1 保守更新のインストール後にはじめてこのプロパティを設定するときは、boolean データ型を指定することで ldmd/fjpm_enabled SMF プロパティが SMF マニフェストに確実に追加されるようにします。たとえば、次のコマンドを実行すると、Fujitsu SPARC システムの PM が無効になります。

```
primary# svccfg -s ldoms/ldmd setprop ldmd/fjpm_enabled=boolean: false
```

解決済みの問題

Oracle VM Server for SPARC 3.5.0.1 ソフトウェアリリースでは次のバグが修正されています。

26408336	Oracle VM Server for SPARC では、1 日の開始時に古い変数またはキーを使わないようにする必要がある
26435797	ドメインからのコアの削除の失敗後に ldmd がクラッシュする
26608395	空のスライスを開こうとしているときに、ovmtcreate/diskio が I/O エラーで失敗する
26747755	26235395 の修正により、遅延再構成の際の効果的な LPS 再計算に狂いが生じた
26789900	T5-2 での既存の ldom 構成で ldmd が st_004 からコアダンプする
26822709	1 つの DIMM に複数の MBLOCK が含まれている場合に ratio モードの deleteboard が失敗することがある
26929947	ovmtdeploy が 2 つ以上の物理ディスクへのデプロイに失敗する
27055165	spconfig がバインドされていない vnet オブジェクトの vlan id (vid) を保存しない
27074852	diskio はエラー発生時にファイル記述子を正しく閉じる必要がある
27201685	コマンドログの書き込みエラーによって zeus_log_lock でデッドロックが発生することがある
27220540	PM が無効になっているときに ldmd の削除に関する警告が表示される
27234488	DBGERR_{L,R} および DBGV_BLOCK マクロが意図したように機能していない
27248004	ldmd では電源管理をデフォルトで無効にする

ドキュメントに関する情報

新しい ldmd/pm_enabled SMF プロパティ

ldmd/pm_enabled に関する次の説明が、[ldmd\(1M\)](#) のマニュアルページからなくなりました。

ldmd/
pm_enabled

ldmd の起動時に電源管理 (PM) を有効または無効にします。デフォルト値は `false` で、PM が無効であることを意味します。

また、ldmd/pm_enabled プロパティ値を `false` に設定すると、ldmd の起動時に PM 可観測性モジュール機能も無効になります。この機能は、ldmd/pm_observability_enabled SMF プロパティ値に関係なく無効になります。

電源管理が無効になっている場合に ldmpower コマンドが失敗する

[ldmpower\(1M\)](#) のマニュアルページの「説明」セクションに次の段落が追加されました。

ldmd/pm_enabled SMF プロパティが `false` (デフォルト値) に設定されている場合、ldmpower コマンドの実行は次のエラーで失敗します。

```
primary# ldmpower
Failed to connect to the ldmpower server: Connection refused
```

Part No: E93722-01

Copyright © 2007, 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

Part No: E93722-01

Copyright © 2007, 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.